

第1回広島市サッカースタジアム整備等事業者選定審議会 会議要旨

- 1 開催日時 令和2年(2020年)10月2日(金) 10時30分～12時15分
- 2 開催場所 広島市役所本庁舎 14階 第7会議室
- 3 出席者
 - (1) 出席委員(7名)
古谷 誠章、渡邊 一成、小野田 泰明、竹内 徹、金田一 清香、
舟引 敏明、佐藤 仁司
 - (2) 欠席委員
なし
- 4 議事
サッカースタジアムの整備等に係る事業者の選定に関する事項について
 - (1) 会長、副会長の選任
 - (2) 審査基準の審議
- 5 公開・非公開の別 非公開
- 6 会議資料
資料1 諮問書
資料2 事業概要
資料3 本プロポーザルの概要
資料4 審査基準書(案)
資料5 評価項目の検討資料
参考1 広島市サッカースタジアム整備等事業者選定審議会規則
参考2 基本計画概要書
参考3 募集要項(案)
参考4 要求水準書(案)
- 7 発言の要旨
【審議会設立の報告】
【都市整備局長あいさつ】
【議事の説明】
【議事(1) 会長、副会長の選任】
事務局
選定審議会規則の第五条第一項に「会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める」とある。指名推薦の方法で選任することとして異議はないか。
一同
異議なし。
事務局
どなたか会長のご推薦をお願いしたい。
小野田委員
日本建築学会の「長く大切にされる公共施設を実現する為の提言」を発案され、リーダーシップを取って日本の公共建築の実現に非常に貢献されている前建築学会会長の古谷先生が相応しいのではないかと思います、いかがか。
一同
異議なし。
事務局
以降、古谷会長に進行をお願いします。
古谷会長
会長を務めさせていただくことになりました、古谷です。宜しくお願い致します。
副会長は、私から推薦させていただいて良いか。

一同

異議なし。

古谷会長

広島市都市計画審議会会長を務め、広島市の街づくりにも精通されている渡邊委員にお願いしたいが、いかがか。

一同

異議なし。

古谷会長

渡邊委員に副会長をお願いする。

【議事（２） 審査基準の審議】

古谷会長

まず初めに、この事業の経緯・概要等について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

（議事（２）について、資料２により説明）

古谷会長

都心立地のサッカースタジアムというユニークな性質に加え、広島市民球場があったことによる、市民が日常的に親しむスポーツのメッカが街の中心にあったという歴史、特に戦後の市民とともにある広島の歴史の中で今回の計画は重要な意味がある。郊外ではなく都心に立地していることや、コロナ後を見据えた市民生活、特に都市での市民生活の拠点となるための様々なアイデアが求められるので、単にスポーツ施設としてではなく、市民の日常的な活動の場としていかにあるべきかという観点から議論していただきたい。

選定審議会では審査基準書の諮問を行うこととなっているが、この事業の重要性を鑑み、募集要項に記載されている参加資格において、どのような設計者像や施工者像を想定し、あるいはどのような設計者、施工者の組み合わせを期待しているかについて、事務局から委員に説明してほしい。

事務局

広島市の工事発注においては、20社程度該当する企業があることが基本となる。今回、10,000㎡の観覧場・球技場の施工実績を有する企業を調べたところ、19社が該当した。そこを基準に、単体企業の場合は15,000㎡、JVの代表企業以外は広く参加を募る観点から用途を制限せず、5,000㎡以上の施工実績を求めている。

設計企業にも10,000㎡以上の観覧場・球技場の設計実績を求めている。ただし、バラエティに富んだ参加者を募るということで、実績を求める設計企業は1社のみとし、設計JVで参加される場合は、代表構成員以外は実績を求めないこととした。

事務局（募集選定支援業務受注者：株式会社山下PMC（以下、山下PMC））

今回は設計施工一括発注であり、設計部門を有する施工会社が設計も工事も一社で担うことを認めている。一方で、設計会社と施工会社の組み合わせで応募することも認めている。ただし、工事監理業務には独立性が求められるため、施工会社とは別企業とすることを求めており、必然的に施工会社だけで応募できない仕立てになっている。

設計JVの代表企業については、ある程度の実績要件を定めている。施工JVの代表企業についても同様に実績要件を定めているが、地元企業にも参画して欲しいので、代表企業以外の要件は少し緩和した。設計JVについては、参画数を規定せず、代表企業以外に実績要件を設けないことで参加の枠組みの自由度を高めた。

今回は単にサッカースタジアムを作るだけでなく、将来Park-PFIで発注される予定の隣接広場との関係が非常に重要になるので、ランドスケープの専門家や、照明・景観についての専門のアドバイザーを加える等のチーム組成については、自由度を持

てるような組成条件としている。一方で、代表となる企業については、大規模な建物を短期間でまとめる必要があるため、面積などの実績要件を求める形としている。

古谷会長

まず第一の応募者イメージとしては、一番シンプルな構造として、大規模ゼネコンが設計も施工も担い、それに工事監理を担う設計事務所が加わっているもの。第二の応募者イメージが大規模な組織設計事務所とゼネコンで組成され、アトリエ事務所を含まないもの。第三が、同じく組織事務所とゼネコンで組成され、更に優れたデザイン能力・設計能力を有したアトリエ事務所が加わったチームとなる。我々が募集要項を推敲する権限が無いとすると、審査基準書において、第三のタイプの参加を促すメッセージを出していきたい。

小野田委員

設計施工一括方式（以下、「DB 方式」）で注意が必要なのは、施工者が基本設計段階、実施設計段階で要求水準書のギリギリまでスペックを切り下げ、内部留保をすることである。企業の経済活動として必然的に起こることであるが、それを阻止する枠組みを要求水準や応募要項に組み込む必要がある。施工会社と設計事務所が別であれば、内部でのチェック機能がある程度働く。そういったこともきちんと見ているということもどこかに明記した方が良い。

例えば、選定審議会や会長の声明文を作成してはどうか。市のリスクも減らしながら、応募者へメッセージを届ける良いアイデアだと思う。

古谷会長

審査基準書の前書きの部分に、審査委員会の期待するもの、評価の観点を表現しようと考えているが、いかがか。

一同

異議なし。

舟引委員

施設の管理については誰がどのように行うのか。

事務局（山下 PMC）

スタジアムの発注方式を決めるに当たって、維持管理・運営も含めた DBO 方式と、設計と工事まで行うという DB 方式との比較検討が行われ、最終的には DB 方式を採用し、維持管理・運営については別の事業者が参画する形にした。

設計・施工段階と維持管理・運営段階を一括で発注すると、応募者側のチームの組成に時間がかかることや、事業者選定に時間がかかること、参画する応募者のチーム数も限られる懸念があることから、建物について幅広く提案が求められるよう、設計・施工までで区切ることとし、その後の維持管理・運営については指定管理者制度の中で運営していく予定で検討している。

古谷会長

審査基準等について、本事業の事業者募集選定支援業務を受託している山下 PMC から、説明をお願いしたい。

事務局（山下 PMC）

（議事（2）について、資料 3 により説明）

竹内委員

敷地の地盤条件等は情報として応募者に提供することになっているのか。

事務局（山下 PMC）

建設予定地内でボーリング調査を行っており、応募者にはその資料も合わせて提示する予定である。

佐藤委員

審査の段階で、よく見ると要求水準を満たしていないというケースが見受けられる。事前に応募者との対話の機会があるのは、そういったことを防ぐとても良いこと

だと思う。

事務局（山下 PMC）

（議事（2）について、資料 4、5 により説明）

古谷会長

審査基準書 1 ページ目の「2 基本的な考え方」に、単に参加資格を満たして出来るだけ安く作ってくれば良いのではないということと、プロのサッカースタジアムとしてだけでなく、市民にも開放される街なかの重要な広場を作るプロジェクトとして、出来るだけ次世代を見据えたような、若々しいアイデアも大いに喚起したいというメッセージを加筆する必要があると思う。

また、審査基準書 5 ページ目の「技術提案評価項目」の、「実施体制・取組方針」についても、評価の視点、あるいは評価項目に付記する形で、単にコンパクトにチームを作れば良いのではないということ盛り込むべきと思う。配点も含めて考えていただきたい。

舟引委員

堀川の整備事業や、戦後に仮設木造住宅が建ち、クリアランスに当たって基町住宅を作り、広場を作って水際に環境護岸を整備した、というような歴史的なコンテキストをきちんと理解した上で提案してほしい。「スタジアム・広場計画」の「4. 良好な川畔の環境や周辺の歴史的環境と調和し、地域のランドマークとなるスタジアム・広場の計画」の主な評価の視点に「広島らしさ」という表現があり、その上に「地域のランドマーク」がある。建築物が独自に主張しようとするきらいが時折見受けられるので、「広島らしさ」を上位とすべきではないか。

もう一点、スタジアムで平日ににぎわいを求めるのは相当難しい。商業店舗を配するだけでクリアするのはかなり無理があり、経営上実現性がある提案でない、後で維持管理・運営を引き受けた会社が成り立たない。格好良いけれども実現性の低い提案は点数を下げられるような形でなければ持続しない。そういった文言をどこかに入れる、又は審査できるような形にした方がよい。

渡邊副会長

評価項目について、新しく追加、又は削除すべきという項目は無い。

配点について、資料 5 に記載された「スタジアム」「にぎわい」「愛される」という 3 つの視点と点数との関係を整理したところ、「スタジアム」が 42 点、「にぎわい」が 18 点、「愛される」が 24 点となった。「にぎわい」と「愛される」を足すと 42 点となり、「スタジアム」と「にぎわい」「愛される」が同程度のウエイトとなり、良いと思う。「にぎわい」よりも「愛される」のウエイトが若干高い点も、愛されるスタジアムであるべきという観点から良い。

総合評価点については、現在 7 : 3 となっているが、価格点の 30 点に対し、「スタジアム」に関する技術評価点は、70 点換算した場合 29.4 点となる。価格点は最高で 30 点満点が貰えるが、技術評価点は厳しく採点すれば点数が減るので、7 : 3 では価格点が高すぎる。8 : 2 にすれば価格点 20 点に対し、「スタジアム」の技術評価点は 33.6 点。9 : 1 ではバランスが崩れるので、総合評価点は 8 : 2 にしてはどうか。

古谷会長

経験的には、6 : 4 になるとかなり価格優位になる。7 : 3 であれば、価格が少々高くても、良いものを選ばれる可能性が出てくるため、技術評価点は 7 以上が好ましいと思っている。今回の事業では価格差はさほど大きくならないことが予想されるため、7 : 3 であっても価格点の差は小さくなると思う。

価格よりも内容を重視しているというメッセージを伝える必要がある。3 割の価格点にはさほど差がつかない認識でいることと、提案内容を重視しているということを文言で補足することも可能である。

小野田委員

古谷会長に賛成である。DB 方式では、設計図書が無い、曖昧な条件の下で価格が提示される。途中段階で色々な調整を行い、提案価格のキャップを守りながらも条件は相当変わっていく。そのため、このキャップが予定価格に収まっていればよく、その中でどれだけ安いかにということにはほとんど意味が無いと考えたほうが良い。むしろ、質の高いものをその金額でやれるという現実性を持っているかが重要で、安くて良いという視点ではなく、提示した値段をどのようにしっかりと守っていくのかを重視したほうが良い。

古谷会長

小野田委員、7：3では極めて普通のメッセージしか伝わらないので、思い切って8：2にしてはどうか。

小野田委員

8：2にして、8の中で、「こういう風にきちんとマネジメントをやります」と書いて貰った方が、2が守られる可能性が上がる。DB 方式においてはそのように考えた方が絶対に良いと思う。

佐藤委員も仰っていたように、「言ったことが守られない」ということを繰り返しているの、守らせるための仕組みを重視する方が良い。

古谷会長

内容に関して強い反対の意見が無ければ、私の方で今の意見を踏まえて事務局とすり合わせを行い、結果を報告させていただく。その他の内容についてご意見はあるか。

小野田委員

「実施体制・取組方針」は、どういうチームでやるのかが重要だということをもう少し明示した方が良い。現在12点だが、技術評価点の15～20%程度は必要と思う。

また、主な評価の視点が3つあるが、建築設計、ランドスケープ、施工、サイン、照明等のデザインが専門性の高い人材で担われて、緊張感を持ちつつ創造性が高いチーム構成になっているか、ということにまず言及すべきである。最初の視点として「チーム構成をどうするか」を明確に出した方が良い。

古谷会長

チーム編成そのものをそれなりの評価の対象とするというのは、冒頭に申し上げたメッセージにもつながる。

過去の実績を評価するという意味での実施体制ではなく、未来に対して、どのように応えていけるチームであるかという方向性で評価する。点数の重みづけに関しては事務局と相談する。

竹内委員

「災害に強いスタジアム」について、建築基準法に基づく構造計算は災害時の建物の継続使用を保証するものではないので、災害時に避難所として使う想定であればそれを明示したほうが良い。

金田一委員

環境に関しては、水と風がキーになると思う。

水は広島市が大切にしてきた部分であり、太田川の護岸も市民にとって非常に大事なものである。水の扱い方は計画で活かされると思う。一方、スタジアムはトイレの排水の出方が非常に特殊である。マツダスタジアムのような野球場よりも、一気にトイレの排水が出てくることがあり得る。水を環境的に活かす部分と、下水についてはピークが非常に大きくなりつつも年間のトータル量としてはさほど負荷のかかる用途ではないというところで、ピークの制御の仕方という意味で、水の循環についてもう少し謳われても良いのではと感じている。

この建物用途では、エネルギーより水が重要と思う。循環させて、環境負荷を下げるとなると取り組みをかなり行わないと、水の消費量が非常に大きくなる。

佐藤委員

国際都市広島シンボルとなるスタジアムであるかということが、まず重要であると思う。広島市民の誇りになるようなスタジアムであり、そこから先程竹内委員からの指摘にもあったような防災拠点というようなことが、通信設備等も含めてどこまで求められているのか。

それから、「VIP ルーム」は、コミュニティやホスピタリティの場という表現に置き換えたほうが宜しいのではないかと思う。現在のコロナ禍においても、孤独の時代というか、画面に向かって仕事をしているような環境。青空の下、スタジアムで一緒になって喜んだりがっかりしたり、点が入って抱き合ったりというようなコミュニティの場のようなものがきちんと考えられているか、という表現のほうが良いと思う。

また、メディア、放送を含めたステークホルダーが非常に大事な状況になっている。広島ビッグアーチを例に出すわけではないが、求められる環境が全く違うので、要求水準書も含めてチェックしていただければと思う。

古谷会長

吹田のスタジアムは、非常に価格を抑えて、コンパクトに出来ている一方で、逆に簡素過ぎて寂しいという意見もある。コンパクト化したことによって、ピッチとスタンドが近くなり、他のスタジアムにはないプレイヤーとの親近感が生まれた、と言われていると思うが、プレイヤー側にはあの雰囲気はどのように評価されているのか。

佐藤委員

日本でナンバーワンの雰囲気である。ただし、天然芝の育成環境に難があり、年に一回張替えなければいけない。南側の屋根のせり出しが原因であるが、そういった反省点を活かしたのが、今年完成した京都のスタジアムである。

古谷会長

他に意見はありませんか。

それでは来週の水曜日までに、各委員から本日の議論を踏まえた構成案、改良案をいただき、それらを盛り込んだ修正案を再度皆さんに確認いただくこととしたい。

これで本日の審議を終了するが、各委員、事務局から補足はあるか。

一同

特になし。

古谷会長

とても有意義なご意見を沢山いただいたので、是非審査基準書に盛り込みたい。ありがとうございました。

事務局

第二回の審議会は3月30日を予定している。また、その間に実施する競争的対話、ヒアリングの出席について後日相談させていただく。

本日はありがとうございました。

(閉会)